

第2期京極町人口ビジョン・総合戦略

京極町企画振興課

はじめに

京極町は、北海道の西部、後志総合振興局管内の東部、羊蹄山の東山麓に位置し、東西に14.3km、南北に13.8kmで、総面積は231.49km²となります。また、東は無意根連峰を境に札幌市と隣接し、西は倶知安町、南は喜茂別町、真狩村、北は赤井川村となり、蝦夷富士と呼ばれる羊蹄山においてはその一角を当町が占めています。

気候は内陸型の気象で、夏季は南東の風が吹くため温暖ですが、日中と夜間の温度差が大きいのと、南西部に羊蹄山があるため、農耕期の後半は日照不足の影響を強く受けるなどの特徴があります。根雪は11月下旬、雪解けは4月下旬から5月上旬頃で、道内有数の豪雪地帯です。

羊蹄山に降った雨や雪が地下に浸透し、数十年の歳月を経て地表に湧き出したふきだし湧水は、適度にミネラルを含んだまろやかな味と一年を通して変わらない水温が特徴です。

水量も豊富で、一日約8万トンの湧出量があり、約30万人の生活用水に匹敵するものです。

ふきだし湧水は、昭和60（1985）年環境庁「名水百選」に選ばれた他に、国土庁「水の郷百選」や「北海道遺産」に選ばれています。この湧水池周辺は、ふきだし公園として整備され、年間約50万人の観光客が訪れています。



羊蹄山（逆さ羊蹄）

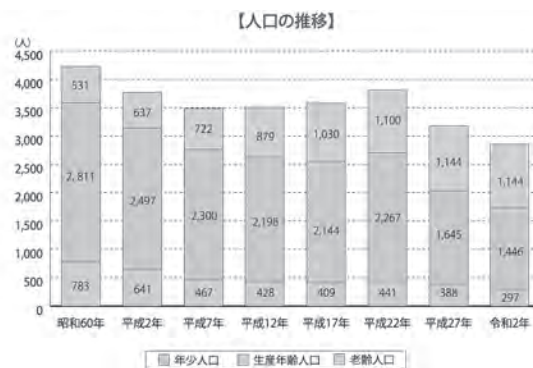


京極町位置図

このふきだし湧水を使用し、日本酒、ミネラルウォーター、コーヒー飲料などが開発され、町の特産品として売られています。

人口の推移

本町における昭和25（1950）年以降の人口推移を国勢調査からみると、昭和25（1950）年時点では7,911人でしたが、昭和44（1969）年に協方鉱山が閉山され、昭和50（1975）年調査時には4,439人まで大きく減少しました。その後も京極発電所建設に伴う工事関係者の増加により一時的に僅かながら人口が増加に転じた時期がありましたが、離農や若年労働者等の都市への人口流出により人口減少が続いています。しかし最近の状況としましては、労働力不足による外国人労働者が増加しており、人口減少率は若干緩やかになっている状況であり、令和7（2025）年3月末の住民基本台帳による人口は、2,738人となっています。



京極町の人口の推移

京極町総合戦略の概要

第2期の総合戦略の策定にあたり、同じく令和3（2021）年度に更新時期を迎える総合計画と一体的に「第2期京極町人口ビジョン・総合戦略」を策定することとしました。総合計画との整合性、連携性を高め、人口減少の抑制、新たな課題や社会情勢の変化に的確に対応しつつ、重要業績評価指標（KPI）を定めPDCAを円滑に行うなどして、持続可能なまちづくりを目指します。

京極町人口ビジョン

本町においては、令和2（2020）年1月1日の住民基本台帳を基準とし、社人研推計による試算を行うと令和42（2060）年には総人口が1,150人となると推計されます。また、国や道の長期ビジョンと同様、合計特殊出生率を令和12（2030）年までに1.8、令和22（2040）年までに2.07（人口置換水準^{※1}）に上昇、社会移動が均衡（転入－転出＝0）すると仮定した場合には、2060年に1,977人となると推計されます。こうした仮定を踏まえ、今後、人口減少を抑制する取組を効果的かつ一体的に行うこととして2060年の人口を2,000人にすることを目指します。

総合戦略の対象期間

本町では、令和4（2022）年度から令和13（2031）年度を基本計画とする「京極町第6次総合計画」を策定し、「第2期京極町人口ビジョン・総合戦略」は、総合計画の基本構想を実現するための主要な施策を体系的に示すものであり、期間を令和4（2022）年度から令和8（2026）年度の5年間とし、必要に応じて随時見直しを行います。

重点プロジェクトと具体的な施策

基本的方向

A 魅力ある農林業・観光・雇用創出

豊かな自然環境を活かした安心安全で高品質な農林産物及び貴重な観光資源のさらなる付加価値の創出とプロモーションにより、魅力ある農林業・観光振興を促進します。また、生き生きと働くことのできる働き口の確保や起業支援の充実を図ります。

具体的な施策

○ 農業の振興

地域農産物のブランド力や生産性を高めるには、自然災害や病害虫などへのリスク対応、スマート農業技術の導入など農作業の一層の省力化・効率化に向けた基盤整備、土づくりなど競争力の高い農業づくりを推進します。

併せて、安定した農業経営の確立のためにも、認定農業者をはじめとする意欲ある多様な担い手と人材の確保・育成・受入が不可欠であり、国や道、関係機関における支援策を活用した営農意欲への導き、JAようていが進める「個別経営体に対する作業支援」と「選荷施設運営」に従事する特定技能外国人の受入拡大に伴う生活支援等の必要な対応を講じることや、高品質及び高収量、安心・安全の生産振興、販路の開拓や新たな作物の導入検討といった、生産者の創意と努力を第一義とした持続可能な農業振興施策について、生産者団体をはじめ関係機関との連携を密にしながら、実効性を持った展開を図ります。

○ 林業の振興

森林の持つ国土保全及びカーボンニュートラル実現に向けた二酸化炭素吸収源としての役割並びに近年懸念されている集中豪雨等の自然災害の増加を考慮した水源の涵養機能^{かんよう}等を持続的かつ高度に発揮するため、適正な森林施業の面的な実施や森林の保全等、長期的な視野による計画的な伐採、造林等の森林整備を推進します。

また、林業生産活動を通じた適切な森林整備を図るとともに、環境に優しい素材である木材の有効活用、さらにはSGEC森林認証を取得している「ようていカラマツ」を含めた地域材について、「植えて、育てて、伐って、使って、また植える」のサイクルをしっかりと確立しながら、新たな付加価値の創出及び販売を促進します。

林業従事者の安定的な雇用の確保については、当町と提携している北海道立北の森づくり専門学院とさらなる連携を図り、専門的知識・施術の習得を目的とした特色ある実習を実施し、将来的に本町に卒業生が就業されることで適正な森林資源の維持管理、循環利用に指導力、実践力の発揮も期待されることから、各団

※ 人口置換水準：人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率の水準。

体と密接な連携を図り、学生の学習環境の充実に必要な支援に努めます。

○ 観光の振興

本町の観光拠点であるふきだし公園の整備を進め、観光客にとって利用しやすい施設づくりを進めていくとともに、町民にとって誇りを持てる施設であり続けられるように活用を進めていきます。

また、ふきだし公園以外の新たな観光資源を発掘・活用し、ふきだし公園に来訪している観光客を町内で周遊できるような仕組みづくりを進め、農業や商工業と連携して地域経済の活性化へ発展していくよう整備します。

さらに、本町だけではなく羊蹄山麓や後志などといった枠組みでの広域観光を関係自治体と連携し進めていきます。



名水百選に選ばれた「ふきだし湧水」

○ 雇用環境の充実

町内企業や商店の自主的な経営努力を助長し、事業の持続的発展を図り地域の活性化や商工業の振興に資するため、関係機関と連携して事業者支援の充実化を進めていきます。

また、地元企業の経営の安定化、新規創業や企業誘致、人材育成に対する支援を充実させ、魅力的な働き口の確保を進めていくとともに、外国人労働者の受入れ体制についても整備を進めます。

B 京極町へひとの流れをつくる

多様な体験・交流の機会を図ることで本町の貴重な文化、歴史に誇りと愛着を持ち、住みたい、住み続けたい、戻ってきたいと思えるまちづくりに取り組みま

す。また、まちの将来を担う若者を中心とした人材の育成・確保を図るほか、様々な取組を通じて、関係人口の創出・拡大を目指します。

具体的な施策

○ 移住定住の促進

町民が住宅を新築や購入した際には補助金の積極的な活用を促し、近年需要が高まっている賃貸共同住宅建設に係る補助金を含め、今後も継続的な支援を行います。また、住まいづくりの促進を図っていくため、住宅環境の整備を推進していき、引き続き、北海道後志総合振興局等関係機関と連携し住宅情報を提供していきます。

移住定住を図るためには、安心して暮らせるための相談体制を整備することや経済的な支援の構築を行い、「京極町に住み続けたい、京極町に戻ってきたい」と思える取組を推進します。また、本町に関わりのある方が地域づくりに参画できる仕組みづくり、ホームページを活用した情報発信の強化、移住体験や移住定住センターを活用した首都圏へのPRなど、新たな移住定住対策や関係人口を増加させる取組の充実を図っていきます。

○ 公共交通の充実

公共交通については、現運行体制の維持・充実を図りながらも、住民の買い物や通院、通学、通勤など多様化する町内ニーズに対応していくため、新たな交通手段等について検討を行います。また、北海道新幹線延伸に伴う倶知安駅の開業や、高速道路後志自動車道の延伸に向けて関係人口を増加させる仕組みや交通利便性を図る取組により、開業効果を十分に発揮させ、近隣市町村と連携を図り2次交通の確保に取り組みます。

C 安心して結婚・出産・子育てができる環境の実現

交流の場の創出や充実した子育て・教育の充実や妊娠・出産・育児に至る一貫した環境づくり、子育てが負担にならないような地域社会の構築、安心できる保健・医療体制の強化を目指します。

具体的な施策

○ 子育て支援の充実

様々な場面を通じて家庭状況を把握し、妊娠・出産・

育児に至る一貫した相談支援を適切に実施し、同時に経済的支援も実施することで、子どもの健やかな成長と母子の健康を確保し、京極町で育った子どもたちが将来にわたって住み続けたいまち、子育てをしたいと思えるようなまちを目指し、より一層の子育て支援に取り組めます。

具体的には、乳幼児期の発達が連続性を有するものであることや、幼児期の教育が生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることに十分留意し、認定こども園や各学校、学童保育等の関係機関と連携を図りながら、安心して子育てできる環境づくりを推進します。

また、保育を必要とする子育て世帯に対し適切な保育サービスを提供することで、子育てしやすい環境に加え、安心して働ける環境を構築していけるよう取り組みます。

一方、町内に高校・大学等がない中で、他市町村へ通学することは大きな経済的負担を伴うものであり、家庭によっては、その負担が大きいため希望する進路が限られてしまうことも想定されるため、高校進学者に対する就学及び通学費用の一部を助成し、経済的負担の軽減を図ります。

D 安全・安心な暮らしを守り、地域と地域が連携する社会の実現

本町に住み続けられるよう、町民の心豊かな「暮らし」を守る地域づくりを進め、全ての町民がそれぞれの役割を持ち協働する「地域共生社会」の実現を目指すとともに、地域の枠を越えた連携を図ります。

具体的な施策

○ 地域福祉の推進

少子高齢化の進展により福祉に係る担い手の減少が見込まれることから、あらゆる町民が役割を持ち、福祉サービス等と協働を目指す「地域共生社会」の実現が求められています。そのため、本町の取組を町民全体に発信し、自助・共助等の福祉意識の醸成や地域福祉に係る担い手の発掘に取り組み、住民による積極的な地域福祉活動への参加を促進します。

高齢者が京極町に住み続け活躍できるよう、活躍の場の創出や住環境整備を実施し、健康寿命の延伸に繋がるような取組を推進します。また、ニーズ調査によ

り多様な支援ニーズを把握するほか、福祉サービスを利用する方の意見が反映できる場を創出し、気軽に相談や助けを求められるような意識啓発を図ります。

○ 生涯学習の推進

生涯学習センター湧学館や公民館などの社会教育施設や地域人材の有効活用を図り、多種多様な町民の意欲に応じた生涯学習活動を行う機会の充実を図ります。

また、関係団体や町民と連携・協力しながら、持続可能な事業・地域づくりの実現に向けた取組を推進するとともに、地域全体で子どもを守り育てる体制を構築します。

子どもを育てる環境は学校教育のみならず、地域社会との関係性も重要視されており、様々な教室や課外活動を通じた地域との連携を目指すとともに、学習の機会を得た団体や個人の活動を地域へ還元できるような仕組みを構築します。

○ 防犯・防災・交通安全対策・安心な消費生活

町民の安全を図るため、防犯灯や、歩道・カーブミラーなどの交通安全設備の整備及び維持管理を実施し、安全な道路環境の充実を図ります。また、防犯パトロール強化の日においては、町民・警察・京極町地域安全協会などと協力し、地域ぐるみで防犯活動の充実を図るとともに、犯罪発生情報や不審者情報などの迅速な情報発信に努めます。

本町で発生した交通事故件数は減少傾向にあります。今後も交通事故を防止するために、幼児から高齢者まで幅広い年代を対象とした交通安全学習や、交通ルールの遵守徹底に向け、関係機関と連携し取り組みます。

災害時においては、地域との協働により、支援の必要な高齢者や障がい者等を把握するとともに、避難時に対応ができる体制づくりを進めていきます。また、公共施設の非常用電源の確保や生活必需品、衛生環境の整備など、避難所の機能強化を図ります。定期的な防災訓練を実施することで町民の防災意識を向上させ、各種災害のタイムラインを作成し、役場内部や各関係機関の即応体制を強化します。さらに、防災行政無線での放送内容の充実を図り、誰もが聞きやすく、

理解しやすい放送ができるよう取り組みます。

消費生活安全の取組については、羊蹄山麓7町村で構成する「ようてい地域消費者生活相談窓口運営協議会」や、町内団体で構成する「京極町消費生活相談ネットワーク会議」と連携し、相談員による講習会などの啓発活動を実施し、消費者トラブルを未然に防ぐ取組を推進します。

取組事例1 「京極町アプリ」

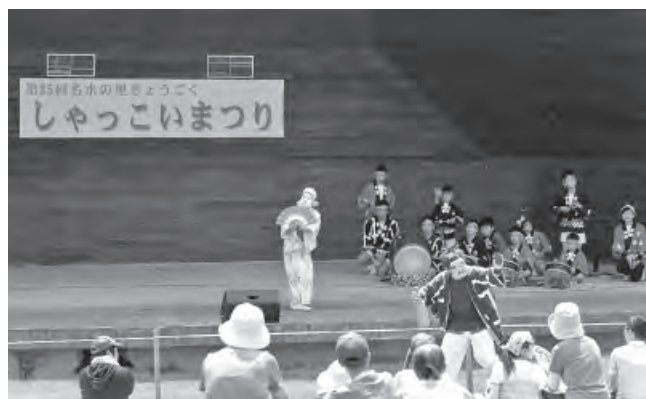
今年3月から京極町の公式アプリを運用し、地域や防災の情報、事業者からのお知らせ等を配信し、移動先でも迅速かつ手軽に情報を取得することが可能になり、総合戦略において取り組む施策をさらに推し進めるツールとして活用していきま



京極町アプリ

取組事例2（観光）「名水の里 きょうごくしゃっこいまつり」

町の補助事業により毎年7月中旬にふきだし公園で実行委員会により開催。「水の祈願祭」や「かき氷早食い競争」、歌やトークショー、大道芸などの催しが目白押しです。令和7（2025）年は7月12日（土）に開催されます。



名水の里 きょうごくしゃっこいまつり

取組事例3（福祉）「きょうごく健康さ〜くる Kenkuru。」

参加者が活動量計またはスマートフォンの専用アプリにより歩数を計測し、定期的に歩数データ送信や体組成・血圧測定、セミナーやウォーキングラリーに参加することで健康ポイントが付与されます。事業終了時には貯まったポイントを景品と交換することができることから、楽しみながら健康づくりができます。また、事業前後で運動・食事に関するアンケートや簡易な検査を実施し、個人・集団の健康意識や行動の変化を評価します。



おわりに

今後の京極町を取り巻く状況は、世界中から注目されているニセコエリアのインバウンドや移住者の動向や北海道新幹線の延伸による倶知安駅の開業、後志自動車道の倶知安までの延伸、といった今後の羊蹄山麓、後志管内にとって大きな節目となる状況にあり、本町のまちづくりにとっても大切な期間となります。

特に、人口減少に関しては、令和2（2020）年の国勢調査人口より5年間で約5%減少、高齢化率は約35%になっており、出生数は毎年15名前後まで減少しています。

このような状況にあっても、このたび策定した総合戦略を通じて、羊蹄山やふきだし公園といった自然を大切にしながら、安全・安心に住み続けられる穏やかなまちづくりを進め、次の世代にしっかりと引き継いでいきたいと考えています。



京極町のゆるキャラ「ゆうくん・すいちゃん」